

大気科学研究部門第3回成果報告会



東京理科大学総合研究院大気科学研究部門の成果報告会を行いますので、ぜひご参加ください。

日時 2019年3月29日(金) 13:00-18:15

場所 2号館211教室 <http://www.tus.ac.jp/info/access/kagcamp.html>

【大気境界層～自由対流圏】

- 13:00-13:15 都市部を低空飛行する航空機の排ガス・排熱データベースの構築 仲吉 信人(東京理科大学理工学部)
- 13:15-13:30 「2020年船舶燃料油硫黄分規制強化による大気質改善効果の評価」について 櫻井 達也(明星大学)
- 13:30-13:45 環境大気中の水素濃度測定 加藤 俊吾(首都大学東京)
- 13:45-14:00 名古屋と東京におけるアンモニア濃度 長田 和雄(名古屋大学)
- 14:00-14:15 能登半島における新粒子生成の発生要因 松木 篤(金沢大学)
- 14:15-14:30 2016～2017年の東京スカイツリーでの氷晶核の観測 當房 豊(国立極地研究所)
- 14:30-14:45 東京の下層雲における雲粒数濃度の季節変化について 三隅 良平(防災科学技術研究所)
- 14:45-15:00 山岳および都市大気エアロゾルの新粒子生成、成長、雲生成に関する研究 三浦 和彦(東京理科大学理学部)
- 15:00-15:15 富士山頂と富士山南東麓における雲水化学の長期トレンド 大力 充雄、○大河内 博(早稲田大学)
- 15:15-16:00 ポスターセッション(コーヒーブレイク)

【海洋・極域大気】

- 16:00-16:15 アジア大気窒素化合物が西部北太平洋の海洋低次生態系へ与える影響 竹谷 文一(JAMSTEC)
- 16:15-16:30 白鳳丸KH-18-6 Leg2航海における東部インド洋海洋大気観測の速報結果 岩本 洋子(広島大学生物圏科学研究科)
- 16:30-16:45 北極広域に沈着した黒色炭素粒子と無機エアロゾルの空間分布 森 樹大(東京理科大学理学部)
- 16:45-17:00 エアロゾル粒子の個別粒子分析：海外の観測キャンペーンで得られた成果 足立 光司(気象研究所)

【光学特性・放射】

- 17:00-17:15 偏光OPCデータを用いた大気エアロゾル粒子の越境輸送判定方法の検討 小林 拓(山梨大学)
- 17:15-17:30 輝度分布を測定する全天カメラの開発 工藤 玲(気象研究所)
- 17:30-17:45 海洋上エアロゾルの光学的特性の長期観測 青木 一真(富山大学大学院理工学研究部)
- 17:45-18:00 甲賀地方丘陵地におけるオゾン・水蒸気鉛直分布の季節変動 矢吹 正教(京都大学生存圏研究所)
- 18:00-18:15 総評(藤田 慎一、植松 光夫、中島 映至)
- 18:30-20:00 交流会(PORTA 神楽坂6F 理窓会倶楽部)

ポスターセッション (28 件) (8 号館 3 階 832 室)

モデル計算による中部山岳から富士山頂へのラドンの輸送	永野 勝裕 (東京理科大学理工学部)
エアロゾル単一質量分析の可能性	野島 雅 (東京理科大学総合研究院)
エアロゾルの視程低下への影響	財前 祐二 (気象研究所)
都内で観測された PM _{2.5} の冬季高濃度時における硝酸ガス・粒子の関係	齊藤 伸治 (東京都環境研究所)
過去 5 年間の山陽小野田市の大気汚染物質変化-PM _{2.5} , SPM, SO ₂ , NO ₂ -	浅野 比 (山陽小野田市立山口東京理科大学共通教育センター)
ガス状・粒子状物質の鉛直濃度勾配の測定	速水 洋 (電力中央研究所)
アンコール遺跡周辺の大気汚染と熱帯豪雨性の特徴	梶川 友貴 (早稲田大学創造理工学部)
首都圏に残された里山の大気浄化能とオゾン生成能の評価	齋藤 啓介 (早稲田大学創造理工学部)
大気中マイクロプラスチック研究事始め: 現状と課題	柳谷 奏明 (早稲田大学創造理工学部)
VOC measurement at Noto peninsula	Sandra Hong-Lam-Hong (首都大学東京)
富士山頂での SO ₂ の一年間を通じたリアルタイム観測の試み	高橋 智樹 (首都大学東京)
船舶排出量データベースの構築と不確実性評価	伊藤 美羽 (明星大学 B4)
西部北太平洋で捕集したシベリア森林火災由来エアロゾルの個別分析	吉末 百花 (東京理科大学理学研究科 D1)
2016-2018 年の東京スカイツリーで観測された新粒子生成	佐藤 丈徳 (東京理科大学理学研究科 M2)
南関東における PM _{2.5} の吸湿特性に関する研究	関根 広貴 (東京理科大学理学研究科 M2)
2016-2018 年の東京スカイツリーにおけるエアロゾルの雲凝結核特性に関する研究	前田 麻人 (東京理科大学理学研究科 M2)
Development of the on-site self-calibration method at water vapor channel and the retrieval method of precipitable water vapor for sky-radiometer	桃井 裕広 (東京理科大学理学研究科 M2)
富士山におけるラドン濃度の変動と気塊由来の関係	横山 慎太郎 (東京理科大学理学研究科 M2)
スカイラジオメータで得られた直達光データの解析による雲判別手法に関する研究	安齊 真央 (東京理科大学理学研究科 M1)
富士山頂における新粒子生成の特徴と傾向	五十嵐 博己 (東京理科大学理学研究科 M1)
富士山頂・太郎坊で捕集したエアロゾル粒子の個別分析	市毛 友彬 (東京理科大学理学部 B4)
2018 年夏季の富士山頂及び山麓におけるエアロゾルの光学特性	乾 諒介 (東京理科大学理学部 B4)
スカイラジオメータにおける水平スキャンと垂直スキャンの相違	大塚 優佳 (東京理科大学理学部 B4)
富士山麓太郎坊における新粒子生成の経年変化	萩原 大樹 (東京理科大学理学部 B4)
東京スカイツリー458m における大気エアロゾルの吸湿特性	笠井 あかり (東京理科大学理学部 B4)
都市大気におけるラドン娘核種の変動と気象の関連	齋藤 毬子 (東京理科大学理学部 B4)
立山連峰に沈着した積雪中 BC の深度分布	清野 俊介 (東京理科大学理学部 B4)
東京スカイツリーにおける雲凝結核の測定	横山 晶美 (東京理科大学理学部 B4)